

平成29年度 第1回全国健康保険協会三重支部評議会議事録

1. 開催日時 平成29年7月21日 金曜日 午前9時30分～午前11時30分
2. 開催場所 全国健康保険協会三重支部6階会議室
3. 出席評議員 伊藤評議員、岩崎評議員（議長）、楠井評議員、中西評議員、橋本評議員、濱野評議員、松本評議員、宮上評議員、吉田評議員、（五十音順）
4. 事務局 真柄支部長、大八木企画総務部長、岡出業務部長、鏡谷企画総務グループ長、小寺保健グループ長、西尾レセプトグループ長、西村企画総務グループ長補佐、家城保健グループ長補佐、新屋業務グループ長補佐、佐藤企画総務主任
5. 議題 (1) 平成28年度協会けんぽ決算（見込み）について
(2) 平成28年度三重支部事業結果報告
(3) 中部運輸局三重運輸支局等との包括的事業連携協定の締結について
6. 資料 【資料1】平成28年度協会けんぽ決算（見込み）について
【別紙】平成28年度三重支部収支について
【資料2】平成28年度三重支部事業結果報告
【資料3】中部運輸局三重運輸支局等との包括的事業連携協定の締結について
7. 質疑応答 下記のとおり

議題1. 平成28年度協会けんぽ決算（見込み）について

【楠井評議員】

三重支部の平成30年度の保険料率は引き上がるのか。

【事務局】

平成28年度の地域差分の収支差が、三重支部は1億500万円のマイナス。マイナスをとった絶対値が支出に加算されるので、保険料率が引き上がる方向には作用するが、そのまま引きあがるものではない。また、平均保険料率が10.00%の中では、極端に保険料率が引き上がることはないと思込んでいる。

【橋本評議員】

平均保険料率を10.00%に維持した場合の今後10年間の準備金と法定準備金に対する残高の状況について、賃金上昇率が0.6%、0.0%のケースでそれぞれ試算しているが、医療費

は横ばい、被保険者数も横ばいという前提で試算したもののか。

【事務局】

医療費、加入者数の伸びは過去の実績や今後の伸び等を用いて、それぞれの賃金上昇率のケースで試算したものとなる。

【橋本評議員】

安定した財政運営を行うために、加入者の医療費を抑制するための施策や、ジェネリック医薬品の普及促進を図り使用率を上げていくなど、いろいろな課題があるのでは。

【事務局】

医療給付費が支出に与える影響というのは大きく、加入者の医療費の抑制やジェネリック医薬品の使用促進等は、安定した財政運営を行う上で、有効な手段であると考えている。

【橋本評議員】

この資料を見ていると、将来に対して悲観的なイメージしか持てない。こういった対策をとれば、医療費の抑制に繋がり保険料率も維持できるとか、プラスの面を示してほしい。

医療費が上り、人口も増えて、マイナスの面が大きいのが実態なのであろうが、少しでも明るい目標をもって取り組んだほうが良いのでは。

【事務局】

収支を示し、協会けんぽの事業を加入者の皆様にしっかりとご理解いただいたうえで、少しでも明るい材料を示していきたいと考えている。

【濱野評議員】

協会けんぽの事業所数・被保険者数・被扶養者の推移（指数）を見ると、事業所数と被保険者数は平成20年度から25年度までは緩やかな伸びだったが、平成25年度以降は急激に伸びている。

全体の事業所数は減少しているが、適用事業所は今後も増えていくのか。

【事務局】

社会保険の適用拡大と未適対策の影響により、事業所数、被保険者数が増えている。ただし、被扶養者数については大きく増えていない。適用拡大が進み、中小企業では、被扶養者から被保険者になるというケースや、零細企業の未適対策が事業所数の増加にも繋がったのではないかと考えている。一方で、健康保険組合の解散等により、健康保険組合から協会けんぽへ加入者が流入してくることも要因のひとつとも言える。

【楠井評議員】

市町では工事等の入札を行う際に、社会保険に加入していることが入札参加資格の要件

となっているところが多いが、これも適用事業所数や加入者数の増える要因のひとつか。

【事務局】

その影響もあると考えられる。入札参加資格がなければ、企業にとってはマイナスになる。社会保険に加入していることや、社会保険料を確実に納付していること等が入札参加の条件となっているので、適用拡大や未適対策が進み、適用事業所数、加入者数が増えている。

【楠井評議員】

平成 30 年度から国民健康保険が県に一元化されることによって、協会けんぽへの影響はあるのか。

【事務局】

今までは、協会けんぽは協会けんぽの加入者に対して、国民健康保険は国民健康保険の加入者へ、縦割りに保健事業を実施していた。しかし、国民健康保険の一元化や医療費の動向等を考えると、県下の住民に対して、どちらの加入者であっても、県や市町と連携して健康づくりを行っていくことが必要である。

議題 2. 平成 28 年度三重支部事業結果報告について

【橋本評議員】

ジェネリック医薬品の使用割合 71.2%というのは、ジェネリック医薬品がごく当たり前の時代になってきたということか。

【事務局】

徐々に普及している。しかし、国の目標値は 80%となっている。70%を超えてから 80%に引き上げるのは難しく、これまで以上に県、市町、三師会等と協力して展開する必要がある。

資料の説明にもあったが、三重支部では、若年層の加入者の使用割合が全国平均よりも低くなっている。特に、子供の使用割合が低いので、ポイントを絞った普及促進活動を展開し、使用率を上げていけば、全体的な使用率も引き上がる。多くの市町が子供の医療費について、無料化や一部無料化としていることが影響を及ぼしていると推測している。自己負担はなくても実際には医療費はかかっているということを、保護者の方にご理解をいただけるよう市町とも協力して周知を進めていきたい。

【橋本評議員】

レセプト点検について、不適正なレセプトの件数が、資格点検については 26,748 件、

外傷点検については3,005件、内容点検については14,949件あったということか。1年間にこんなに件数がでてくるのか。

【事務局】

毎年同じくらいの件数がでてくる。

【橋本評議員】

例えば、平成28年度の累積効果額（加入者1人あたり）について、三重支部は46位と下位の方にある。しかし、本来は、件数や効果額は低いほうがいいのではないか。全国46位だから件数を上げていくとか、効果額を上げていかななくてはというのは逆なのではないか。

【事務局】

資格点検において、保険証が適正に使用されていることの表れであるので、本来、件数や金額は低いほどいい。しかし、喪失後受診による返納金は発生しているので、必ずしもその辺りの指導や教育、周知といったものが十分ではないというところもある。

【橋本評議員】

実態はそうなのであろう。しかし、本来は件数、効果額を下げる取組みを実施することがあるべき姿ではないか。

【事務局】

そう考えている。保険証の適正使用について周知を行い、資格喪失後受診による返納金の発生が多い事業所を個別に訪問する等といったところに力を入れている。

【橋本評議員】

不適正な件数だけでもおよそ5万件ある。不適正なデータを分析すれば、具体的な対策がとれるのでは。

【事務局】

三重支部には、毎月レセプトが医科、歯科、調剤を合わせておよそ50万件くるので、そういったビッグデータを業務に活用していければと考えている。

【吉田評議員】

被扶養者の資格再確認業務について、平成28年度の提出率が85.1%であり、未提出が約15%（約2,400事業所）ある。平成29年度の取り組みの中で、未送達事業所には、日本年金機構に実態調査を依頼するとあるが、協会けんぽ単独の調査はできないのか。

【事務局】

事業所の適用や加入者の資格取得、喪失については、日本年金機構が窓口となっている

ので、協会けんぽ単独の調査は行えない。

【吉田評議員】

協会から未提出事業所に対して何かアクションは起こしているのか。

【事務局】

再度提出するよう文書での督促を行っている。

【吉田評議員】

1回督促を出しても提出してこない事業所は、2回目の督促をしても提出しないのではないか。個別に電話督促や事業所訪問をする等、もう少し踏み込んだ手法を取らなければ、資格の適正化にはならないと考える。

【伊藤評議員】

本当に被扶養者としての加入要件を満たしているか確認がとれない訳だが、確認がとれない被扶養者は加入したままになるのか。

【事務局】

最終的にはそうなる。被扶養者調書の提出がない事業所の分析が十分されていないところもあるので、そういったところのデータを分析し、効果的な督促を行うようにしていきたいと考えている。

【吉田評議員】

被扶養者の再確認業務について、今後マイナンバーの活用をしていったらどうか。

【事務局】

協会では、被保険者、被扶養者のマイナンバーを取得しているところだが、現段階では、マイナンバーを使用しての再確認業務の展開までは考えていない。

【吉田評議員】

三重支部の平成28年度のサービススタンダードについて、平成27年度と比べると遅延している。全国平均の支払い日数と比べても少し遅い。何か特殊要因があって遅延したのか。

【事務局】

三重支部では、協会設立当時から給付金の支払いについて、十分調査をし支払ってきた。大きな目標は10日以内に定めていて、それを下回っていたらいいということではないが、審査を進める中で、関係機関へ調査を依頼する等、適正化に注力しているので、全国平均よりも日数がかかり、平成27年度と比べ支払いに遅れが生じた。

【吉田評議員】

目標値は達成しているのですが、その中でもより精度を高めた適正な支払いに重きを置いたということか。

【事務局】

傷病手当金は生活保障給なので、支払いは少しでも早めることは意識している。しかし、中には不正請求もあるので、そういうところをよく見極めて審査をしていくことが必要と考える。

議題3．中部運輸局三重運輸支局等との包括的事業連携協定の締結について

(質疑応答特になし)